

武蔵国分寺跡資料館 令和2年度秋季企画展

「玉川上水と国分寺

開催中

—恋ヶ窪村分水から見る水の変遷—

展示構成

- 第1章 玉川上水の成立
- 第2章 恋ヶ窪村分水の誕生
- 第3章 武蔵野新田の開発と玉川上水
- 第4章 近代の水道整備と恋ヶ窪村分水
- コラム 石造物から見る水と人々の生活



江戸時代に江戸市中へ飲料水を供給する目的で羽村から多摩川の水を引いた玉川上水が開削されました。玉川上水は武蔵野台地を横断した人工水路であり、江戸時代を通じて江戸市中に水を供給するライフラインとして利用されました。明治時代に水道設備が近代化されると、玉川上水は多摩川からの導水路として昭和40年代まで利用され、長く東京の水の供給に役立てられていました。



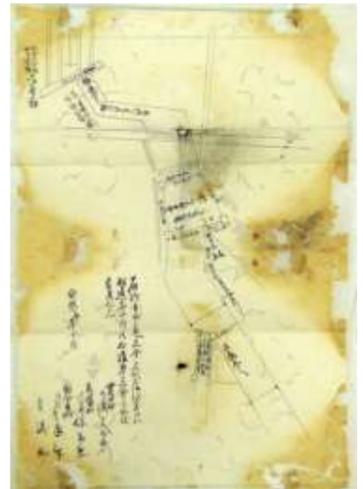
〈嘉永5年5月 玉川上水分水御請書〉

江戸時代には玉川上水から流域沿いの村々へ分水が行われ、水不足に悩まされていた村々の環境改善に貢献しました。国分寺市域でも玉川上水からの分水が行われ、江戸時代において玉川上水は人々の生活になくてはならないものでした。分水の管理は主にその地域に住む人々の手で行われており、当時の人々にとって、水は自分たちの手で維持するものでした。

玉川上水は上水路の役割を終えてからも導水路として利用されていましたが、各分水は明治時代以降統合されて急速にその姿を消していきます。国分寺市域の分水もその多くが水田の

減少や上下水道の敷設などの時代の変化を受けてなくなってしまいましたが、市内の各所にはその名残が残っています。その中で、国分寺村外二ヶ村組合分水の一部である恋ヶ窪村分水が平成29年に市重要史跡に登録され、開削当時の姿を今に残しています（詳しくは4ページ）。

本企画展では江戸時代から明治時代における玉川上水の変遷と国分寺村外二ヶ村組合分水や市内の分水を中心に、国分寺市内の玉川上水にまつわる歴史や人々の営みを紹介します。



〈安政3年10月 分水樋口修覆絵図〉

■期間

令和2年9月19日（土）～12月6日（日）

※新型コロナウイルスの感染状況等により、日程等の変更や中止となる場合があります。

■会場

武蔵国分寺跡資料館講座室（おたかの道湧水園内）

※入園料100円（中学生以下は無料）。

また、身体障害者手帳等の提示により、同手帳保持者とその介護者1人の入園料を免除できます。

■時間

午前9時～午後5時（入館は午後4時45分まで）

■休館日

月曜日（祝・振替休日の場合は、その直後の平日）

問合せ

ふるさと文化財課 ☎ (042) 300-0073

武蔵国分寺跡資料館等文化財関係施設の来館（園）時のお願い

新型コロナウイルス感染症によりお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りします。また、同感染症に罹患された方々の一日も早いご快復をお祈りします。

現在、武蔵国分寺跡資料館・おたかの道湧水園・文化財資料展示室・史跡の駅おたかカフェ・民俗資料室（以下「文化財関係施設」という。）では、新型コロナウイルス感染防止対策を講じていますが、接触や飛沫により同ウイルスに感染することが分かっていることから、来館（園）される皆様にも次のことをお願いしています。

【文化財関係施設来館（園）時のお願い】

- ・37.5度以上の発熱や風邪の症状のある方、体調不安のある方の入館（園）のご遠慮
- ・施設ごとの人数制限
 - …入館（園）までお時間をいただくことがあります。
- ・氏名と連絡先の記入
 - …同感染症の疑いが生じた際、保健所等の公的機関への情報提供を行う場合があります。
- ・マスク着用、手指消毒とソーシャルディスタンス（2メートル程度の距離）の保持 等

詳しくは、国分寺市ホームページ「文化財関係施設」添付ファイル「武蔵国分寺跡資料館等の利用に係る留意事項」をご確認ください。（右のQRコードからアクセスできます。）



新型コロナウイルス感染症の再流行も予想されております。皆様には、ご自身の身を守るためでもあるということをご理解いただき、文化財関係施設の新型コロナウイルス感染防止対策にご協力を賜りますようお願いいたします。

問合せ

ふるさと文化財課 ☎ (042) 300-0073